

## 上海日本人学校と上海市

伊藤憲栄 (鳥取市立若葉台小学校／元上海日本人学校虹橋校)

### はじめに

私は、上海日本人学校虹橋校(ホンチャオ校)に、平成21年4月から平成24年3月まで派遣された。上海日本人学校の様子を報告したいと思う。ここに書いている情報は、当時(平成21年から24年)のものである。

### 1 上海日本人学校虹橋校

#### (1) 上海日本人学校の様子

上海日本人学校虹橋校は、児童数約1,500人という大きな学校である。1・2年生は8～10学級。最も少ない6年生でも5～6学級ある。全校では約50学級になる。これは、世界でも最大規模の日本人学校になる。所在地は、上海総領事館も近く、日本人が多く住む、虹橋地区に建っている。



写真1 学校の様子

上海には、虹橋校(ホンチャオ校)と浦東校(プートン校)の2校の日本人学校がある。それぞれ同規模の学校である。浦東校は、小学校・中学校・高等学校のある学校だが、虹橋校は小学校のみの学校である。

校訓は「独歩博愛」。独歩とは、自らを育み、自分らしさを発揮して世の中の役に立とうとする精神、博愛とは、自他を愛し、よりよい世の中をつくっていかうとする精神である。学校教育目標は、「自ら学び、明るく、やさしく、たくましく、国際性豊かな児童を育成する。」である。この校訓、教育目標を実現・達成するために、在上海の特性を生かしつつ、ソフト・ハードの両面の教育環境を充実・整備している。子ども達は整った学習環境の中で、毎日の授業を受けていると感じている。

これだけの人数が通う小学校ということで、私が一番初めに衝撃を受けたのが登下校だ。ほとんどの子どもが送迎バスで登下校をしているのだが、大小合わせて約60台のバスが毎日子ども達の送り迎えのために動いている。朝と夕方は、近くの大通りに日本人学校関係のバスが行列を作ることになる。

子ども達の安全第一に考え、下校時には、50程ある全学級が一斉にバスに乗り込み、全員の乗車が確認されて初めてバス出発ということになる。



写真2 バスでの登下校



写真3 下校時の見送り

約 60 台のバスが一斉に出発していくとき、全職員で子ども達の下校を見送っている。この学校ならではの送別風景だと思う。

学校施設も充実していて、廊下も含めて全館に冷房が入る。校庭は、全面天然芝のフィールドに陸上競技場のようなタータントラックのグラウンド。体育館は 2 つ（そのうち 1 つは冷房完備）。屋内プールもあり、水泳学習は 1 年中行うことができる。（学年毎に水泳学習を行う時期を分けている。）特別教室も多く、子ども達は整った学習環境の中で、毎日の授業を受けることができている。

上海日本人学校の特色ある学習と言えば、全学年週 1 回ずつの英語と中国語だと思う。英語も中国語もネイティブの講師による授業が展開されている。様々な国や地域から来た子ども達が多く在籍しているので、中には小学校 1 年生でも英語や中国語が流暢に話せる子ども達がいる。そんな子ども達でも満足できる語学の学習が展開されている。それまで外国語を指導する機会が少なかった私にとっても、語学の指導法を研究し、実践する機会にもなり、とても参考になった。また、現地校との交流や中国文化を体験する学習などもカリキュラムに組み込まれている。



写真 4 ALT との外国語活動

## （2）上海日本人学校の主な行事

1,500 人の児童が在籍し、50 学級ある上海日本人学校のため、学校行事を行うためにも日程調整をしたり、進行を工夫したりする必要がある。手間はかかるが、どの行事も大人数ならではのダイナミックな行事になる。また、海外にある学校、上海にある学校という特性を生かした行事を積極的に行っている。

### ○ 1 年生を迎える会

児童会や新 6 年生が中心となって開催している。各学年それぞれ 200 人以上を超える子ども達による出し物は迫力があり、新入生も楽しんでいる。

### ○ 修学旅行・宿泊学習

6 年生は 2 泊 3 日の北京旅行。北京の観光地を回り、中国の理解を深めていた。5 年生は市内の野外活動施設「東方緑舟」へ出かけ、1 泊の集団活動を行っていた。5 年生も 6 年生も仲間との絆が深まる時間となった。



写真 5 修学旅行のようす

### ○ 遠足・校外学習

全校の規模が大きいので、全校一斉に遠足をするというようなことはできない。1 年生は動物園などの遠足、2 年生は近隣の「長風公園」遠足や芋掘り、3 年生は現地の市場見学や工場見学、4 年生は清掃工場見学など、学年に応じた活動を行っている。各学年の学習内容に応じた校外学習が組まれている。海外での校外学習のため、安全確保に関しては細心の配慮を行っている。子ども達にとっては、とても楽しい時間である。

### ○ 運動会

1,500 人の児童と 3,000 人の保護者、来賓とスタッフをあわせると 5,000 人が本校グラウンドに集い運動会を開催している。特に各学年 200 人以上で行うダンス・踊り・組体操などの表現

は迫力がある。全校生徒を赤組と白組にわけて、応援合戦等で応援を競い合う。全校児童1,500人が赤組と白組の二つに分かれて競い合う応援合戦はとても迫力がある。

#### ○チャレンジタイム

1年生は中国影絵鑑賞，2年生はカンフー体験，3年生は京劇体験，4年生は上海雑技体験，5年生はタンユエン（中国の餅）作りと中国獅子舞鑑賞，6年生は花文字体験等，PTAが中心となって中国文化に触れる活動をしている。体験から，中国文化や伝統芸能の奥深さ，すばらしさを学んでいる。



写真6 運動会・ソーラン節

#### ○現地校交流

現地中国の学校と交流をしている。内容は遊びの交流や音楽の発表交流などである。1年生でも手作りの名刺を手に「ウォージャオ…（私の名前は…です。）」と自己紹介をする。その後，日本の「ハンカチ落とし」や中国の子ども達の遊びをして，遊び交流も行った。中国現地の子供達と通じ合える，大事な活動である。



写真7 現地校交流のようす

#### ○学習発表会

日頃の学習の成果を見てもらう発表会である。これも，全校1,500人が，同日に一堂に会して開催とすることは難しいので，学年ごとに日を設定している。音楽科や総合的な学習などの成果について，工夫を凝らして発表している。

#### ○持久走記録会

学年ごとに持久走に挑戦する。試走も行い，一人一人が目標タイムをもって挑む。持久走記録会週間を設定し，目標達成を目指して毎日持久走の練習に励んでいた。

#### ○<平成24年度>がんばろう！日本キャンペーン

平成23年3月に東日本大震災があった。児童や教職員の中には東北や関東出身者も多く，祖父母や親戚，友達が被災したという児童や教職員も少なくなかった。現地に駆けつけて様子を知りたい，何かお手伝いしたいという思いを持ちながら，それもかなわない無力感と心配の思いでいっぱいだった。離れて暮らすから募る日本への思いと心配と愛おしさ。

平成24年度，児童会が中心になって「がんばろう！日本キャンペーン」を行った。東日本大震災の被災地の方々に対し，上海から何かできないかと考え行動を起こした。初めに，募金活動を行い，中国円で79,259元(日本円にして約103万円)と日本円101,045円を，



写真8 がんばろう！日本キャンペーン



写真9 全校ボランティア・千羽鶴作り

在上海日本総領事館を通じて被災地へ送った。次の活動は千羽鶴を作った。全校児童が縦割り班（1年生から6年生までが縦割りで100班を作っていた。）で鶴を折った。昼休みごとにボランティアの子ども達が鶴をつなぎあわせ、千羽鶴が10束、万羽鶴ができた。1束ずつの千羽鶴を被災地の10校の小学校に送った。その次の活動として、被災地に届けるメッセージを書いた。日本から遠く離れた上海から、日本を応援し続けたいというメッセージが込められていた。

## 2 上海市

次に赴任先であった上海市の様子について報告する。これも、情報は当時（平成21年から24年）のものである。

### （1）上海の街と生活の様子

元気な大都市上海は、GDP世界第2位の中国において、国内最大の経済都市である。常住人口は2,300万人。超高層ビルと昔ながらの街並みが交じり、純アジア文化と欧風建築など他国の文化が調和する大都会である。アジアで一番高いビルと、三国時代に建築された寺院とが一緒に立ち並ぶような街である。

平成22年には、「上海万博」が開催された。会場面積は過去最大。240を超える参加国・地域・機関数も過去最多。延べ7,000万人を超えた入場者数も史上最多だった。上海らしい、スケールの大きな国際博覧会だった。上海万博に向けて街がさらに近代化に向けて変わっていった。古い家屋が潰されて更地になり、近代的なビルやマンションが建設されていた。私が住んでいた3年間でも、8路線だった地下鉄が13路線まで増設された。

上海の特色の一つに日本人が多いということが言える。3ヶ月以上の長期滞在をしている日本人は6万人。出張者や旅行者も合わせると、10万人くらいの日本人が上海にいるそうだ。

私が派遣されていた虹橋校は、上海の西側の虹橋地区にあった。在上海日本総領事館もあり、日本人がたくさん居住している。日本人向けの店やサービスも多く、街を歩いていると、日本語の文字をよく見かける。日本語で書かれた看板の飲食店に入ると、「いらっしゃいませ。」と日本語で迎えられる。メニューも日本語。注文も日本語。時々、自分が海外にいるということを忘れてしまいそうなくらい、日本語にあふれていた。



写真10 上海タワー



写真11 上海万博のようす

### （2）現地の学校と日系企業

3年間のうちに何度か現地の小学校の見学に行った。日本の小学校と上海の小学校とカリキュラムの上でどのように違うのか大変興味深く見学させてもらった。因みに中国では、学校カリキュラムは州や特例市ごとに設定されている。上海市の教育カリキュラムは上海市が設定している。また上海市は、PISA（国際学習到達度調査）で毎回1位である。その教育システムは

興味深い。英語学習は、幼稚園から始めている。小学校では当たり前のように英語学習があり、図工等、教科によっては英語で指導している教科もあった。算数は小学校2年生で体積の初歩的な学習をしていた。日本のカリキュラムに比べ、ずいぶん早い。逆に体育にはほとんど力を入れてないようだった。(別に「体育学校」があり、運動面で活躍する人材はそちらで育成するようだ。)一番驚いたのが家庭学習の時間。毎日5時間ぐらいかかる宿題があるそうだ。日本ではPISAも見据えて「活用力」を高めようとする傍らで、PISA上位の上海では時間をかけて所謂詰め込み教育をしている実態に驚いた。

上海市周辺には多数の外資系企業がある。日系企業も多い。何度か日系企業の工場見学をさせてもらった。日本でも工場見学をさせてもらったことがあるが、日本国内にある工場と上海市にある工場とで、同じ日系企業の工場であっても、多数の違いを見ることができた。最も印象的だったのが従業員の人数である。日本国内の工場は、ほとんど機械やロボットが作業し、従業者はその機械を管理していたりチェックしていたりする印象があるが、上海周辺の工場では、ロボットや機械は少なく、多量の従業者がベルトコンベアの両脇に並び、手作業で製造していた。安い人件費と、豊富な労働力によって、このような違いが出るのだろうと感じた。「世界の工場」とも言われる中国の工場を見えたことも貴重な経験となった。

### (3) 上海の人とのつながり

平成22年度、尖閣諸島をめぐる問題があった。中国国内での「反日感情」が日本でも連日報道され、日本国内から多くの方に心配をかけたが、上海では、思ったほどの騒ぎにはならなかった。もちろん、2,000万人を超える上海在住の中国人。中には日本のことを良く思っていない方もいるのだろうが、誰も彼もが日本人に対して悪いイメージを抱いているわけではないと感じた。上海に派遣されている期間、私には中国人の知り合いや友人も多くできた。もちろん日本人と知り合いになる中国人はどちらかと言うと親日的なのだろうが、中国人の中でも、中国政府からの報道を懐疑的に見ている方もいるし、日本のことを応援している方もいることがわかった。ある日タクシーに乗ったとき、私が日本人だと知ると、東日本大震災について話しかけられた。その運転手の中国語から、日本を心配し、応援してくださっている気持ちが伝わってきた。本当に嬉しく思った。



写真 12 英語で図工の学習をする



写真 13 上海郊外の日系企業



写真 14 仲良くなったタクシーの運転手と

私の息子が、小学校2年生のときに「JAL 海外生活エッセイコンテスト」に作文を応募し、優秀賞をいただいた。その作文の最後で以下のようにまとめている。「上海のバスでは、このようによくせきをゆずってもらいます。まんいんのバスでも、ずっと立っていたことはありません。それからよく話しかけられます。やさしい人が、おおいのだろうと思います。ぼくも大人になったら、中国の人のように、せきをゆずれる大人になりたいです。」

日本人は、中国のイメージをどのように抱いているのだろうか。私は、3年間の上海生活の中で、いつでも素早く親切な行動や判断をする姿、約束したことは誠実に実行しようとする姿など、魅力的な中国人の姿をたくさん見てきた。しかしある日、インターネットで日本国内のテレビ番組を見ると、中国人の悪いイメージがニュースで報道されていた。一方的な報道を残念に感じた。日本人と中国人がお互いに好印象を抱きながら、付き合っていける社会が理想だと思う。又、中国に限らず、「報道されていることが全てではない。」という認識を持つことの大事さも感じる。この度、私達家族は、現地の上海に行き、上海の人や中国人の本当の姿と触れることができた。現地に行ってみないとわからないことは、意外と多いものなのだろう。

### 3 おわりに

上海に派遣されてから3年間の活動を振り返り、まとめた。上海日本人学校の子ども達は、日頃の上海での生活の中で、また様々な教育活動を通じて、中国の良さや日本の良さに気付いたり、再認識したりしている。私自身も、この3年間で中国の良さを感じると共に、日本の良さを再発見してきた。日本も中国も私にとってとても大事な国である。日本と中国、今後もつながりを深めてほしいと思う。上海日本人学校虹橋校の子ども達が、校名の通り「虹の橋」となり、両国の架け橋のような存在になってほしいと願っている。



写真 15 多くの親切な方に囲まれて



写真 16 上海日本人学校の児童達と